

教職科目

授業科目名	授業題目	単位数	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日 講時
国語科教育論Ⅰ	国語教育と国語科教育の 基礎を学ぶ。	4	挽地 裕之	3,4	水曜2限
国語科教育論Ⅱ	国語科教育論Ⅱ	4	小川 典昭	3,4	水曜1限
英語科教育論Ⅰ	中等英語科教育の理論と 実践	4	鈴木 渉	3,4	木曜5限
英語科教育論Ⅱ	中等英語科教育の理論と 実践	4	齋藤 嘉則	3,4	木曜4限
フランス語科教育法Ⅰ	フランス語教育法入門(1)	2	黒岩 卓	5	火曜1限
フランス語科教育法Ⅱ	フランス語教育法入門(2)	2	黒岩 卓	6	火曜1限
地理歴史科教育法Ⅰ	学習指導要領解説と授業 案の作成	2	初澤 敏生	5	水曜2限
地理歴史科教育法Ⅱ	高等学校歴史授業の設計 と実践	2	手代木 章宏	6	水曜2限
宗教科教育法Ⅰ	ポスト多文化主義教育が 描く宗教	2	高橋 原	5	金曜1限
宗教科教育法Ⅱ	宗教文化教育	2	高橋 原	6	金曜1限

科目名：国語科教育論 I

曜日・講時：水曜 2 限

semester：3, 4 単位数：4

担当教員：挽地 裕之

コード：LB93201, 科目ナンバリング：LHM-EDU901J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：国語教育と国語科教育の基礎を学ぶ。
2. 授業の目的と概要：①国語科教育の基礎基本を身につける。
②国語科教育の周辺を知り多角的な視点から分析できる力をつける。
3. 学習の到達目標：講義毎の学習内容を言語化することができる。
4. 授業の内容・方法と進捗予定：
 - ①国語教育と国語科教育の違い。
 - ②国語科教育以前 1 (体験的教育論)。
 - ③国語科教育以前 2 (授業)。
 - ④国語科教育以前 3 (学びと消費活動) など
5. 成績評価方法：出席 (1 講義参加で 2 点×30 回)、レポート課題 (20×2 前期・後期)
6. 教科書および参考書：オリジナルテキスト (毎時間配布)、学習指導要領。
7. 授業時間外学習：課題図書のリポート。
8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
9. その他：
毎時間、3 人一組でディスカッションします。

科目名：国語科教育論Ⅱ

曜日・講時：水曜 1 限

セメスター：3, 4 単位数：4

担当教員：小川 典昭

コード：LB93101, 科目ナンバリング：LHM-EDU902J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：国語科教育論Ⅱ

2・授業の目的と概要：中学校や高等学校の国語科における授業づくりの実践的な技能を身につけ国語の授業づくりの特質を踏まえて、教材研究や発問づくり、指導案の作成、模擬授業等を実践的に行う

3. 学習の到達目標：国語科における指導案の作成や学習指導・評価等の知識や技能を身につけ、教壇実習ができる

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：教師の魅力～国語科が育む生きる力
第2回：いま求められる国語の力とは（全国学力テスト小学校国語科テストをもとに）
第3回：いま求められる国語の力とは（全国学力テスト中学校国語科テストをもとに）
第4回：国語の授業づくりの特質について①（なぜ日本語を学ぶのか？なぜ教えるのか？）
第5回：国語の授業づくりの特質について②（心に残る国語教室の本質を探る）
第6回：国語の授業づくりの特質について③（小中高国語教室の実践からⅠ）
第7回：国語の授業づくりの特質について④（小中高国語教室の実践からⅡ）
第8回：教材研究の方法と発問・課題づくりについて①（読むことに関する高校教材を中心に）
第9回：教材研究の方法と発問・課題づくりについて②（読むことに関する中学校教材を中心に）
第10回：教材研究の方法と発問・課題づくりについて③（話すこと・聞くことに関する教材を中心に）
第11回：教材研究の方法と発問・課題づくりについて④（書くことに関する教材を中心に）
第12回：国語科が目指す「主体的・対話的で深い学び」①（学習形態の機能と授業設計－読む書く聞く）
第13回：国語科が目指す「主体的・対話的で深い学び」②（学習形態の機能と授業設計－机間指導と発問）
第14回：国語科が目指す「主体的・対話的で深い学び」③（学習形態の機能と授業設計－ペア学習の効果）
第15回：発展的な内容や課題に係る授業づくりについて①（韻文指導）
第16回：発展的な内容や課題に係る授業づくりについて②（情報機器の活用）
第17回：発展的な内容や課題に係る授業づくりについて③（音読指導）
第18回：発展的な内容や課題に係る授業づくりについて④（古典指導）
第19回：学習指導案の構成について
第20回：授業設計と学習指導案の作成について（小説教材を中心に）
第21回：模擬授業の実施①（Aグループ）
第22回：模擬授業の実施②（Bグループ）
第23回：模擬授業の実施③（Cグループ）
第24回：模擬授業の実施④（Dグループ）
第25回：模擬授業の実施⑤（Eグループ）
第26回：模擬授業の実施⑥（Fグループ）
第27回：模擬授業の振り返りと授業改善について①（自己評価を中心に）
第28回：模擬授業の振り返りと授業改善について②（相互評価を中心に）
第29回：学習評価の実際と課題について
第30回：国語科の実践研究の動向と課題について

5. 成績評価方法：平常点（40%）・模擬授業（30%）・レポート（30%）

6. 教科書および参考書：『中学校学習指導要領解説国語編』（文部科学省刊）※最新刊
『高等学校学習指導要領解説国語編』（文部科学省刊）※最新刊

7. 授業時間外学習：説明・評論文や小説等の教材研究、学習指導案づくりなどを各自事前に行う。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

○

9. その他：

科目名：英語科教育論 I

曜日・講時：木曜 5 限

semester：3, 4 単位数：4

担当教員：講師（非）

コード：LB94501, 科目ナンバリング：LHM-EDU903J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：中等英語科教育の理論と実践

2. 授業の目的と概要：学習指導要領、教科用図書、音声指導、語彙・表現指導、文法指導、文字指導、英語でのやり取り、生徒の特性や習熟度に応じた指導、評価等に関する内容を扱う。

3. 学習の到達目標：中学校及び高等学校における英語科教育の基礎を身に付ける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

“第1回目：シラバス説明、自己紹介、英語を教えるとはどういうことか
第2回目：聞くことの指導（1）講義
第3回目：聞くことの指導（2）演習
第4回目：読むことの指導（1）講義
第5回目：読むことの指導（2）演習
第6回目：話すことの指導（1）講義
第7回目：話すことの指導（2）演習
第8回目：書くことの指導（1）講義
第9回目：書くことの指導（2）演習
第10回目：領域統合の指導（1）講義
第11回目：領域統合の指導（2）演習
第12回目：ペア・グループワークの指導（1）講義
第13回目：ペア・グループワークの指導（2）演習
第14回目：発音指導（1）講義
第15回目：発音指導（2）演習
第16回目：語彙指導（1）講義
第17回目：語彙指導（2）演習
第18回目：生徒の特性や習熟度に応じた指導（1）講義
第19回目：生徒の特性や習熟度に応じた指導（2）演習
第20回目：評価（1）講義
第21回目：評価（2）演習
第22回目：見方・考え方を働かせた授業
第23回目：言語活動を通して指導する
第24回目：コミュニケーションを図る資質・能力を育成する指導
第25回目：指導案作成
第26回目：模擬授業①
第27回目：模擬授業②
第28回目：模擬授業③
第29回目：模擬授業④
第30回目：模擬授業⑤、まとめ”

5. 成績評価方法：指導案（30%）、模擬授業（30%）、テスト/レポート（30%）、授業に対する貢献（10%）

6. 教科書および参考書：・鈴木渉（2017）『実践例に学ぶ第二言語習得研究に基づく英語指導』大修館書店・文部科学省（2018）『中学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 外国語編』開隆堂出版・文部科学省（2019）『高等学校学習指導要領（平成30年度告示）解説 外国語編・英語編』開隆堂出版・文部科学省（2020）『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校外国語』・文部科学省（2020）『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校外国語外国語』”

7. 授業時間外学習：教科書の予習・復習各1時間、レポート・プレゼンテーション作成2時間、計4時間の授業外学習が必要

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

○

9. その他：

科目名：英語科教育論Ⅱ

曜日・講時：木曜 4 限

semester：3, 4 単位数：4

担当教員：講師（非）

コード：LB94401, 科目ナンバリング：LHM-EDU904J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：中等英語科教育の理論と実践

2・授業の目的と概要：学習指導要領、教科用図書、音声指導、語彙・表現指導、文法指導、文字指導、英語でのやり取り、生徒の特性や習熟度に応じた指導、評価等に関する内容を扱う。

3. 学習の到達目標：中学校及び高等学校における英語科教育の基礎を身に付ける。

4. 授業の内容・方法と進捗予定：

第1回目：シラバス説明、自己紹介、英語を教えるとはどういうことか

第2回目：学習指導要領 概説（1）：講義

第3回目：学習指導要領 概説（2）：講義

第4回目：学習指導要領 概説（3）：講義

第5回目：学習指導要領 概説（4）：講義

第6回目：カリキュラム・デザイン 概説：講義・演習

第7回目：目的、内容、配列：講義・演習

第8回目：教材のフォーマットと提示：講義・演習

第9回目：モニタリングと評価・評定：講義・演習

第10回目：評価・確認：講義・演習

第11回目：指導方法と指導原理（1）：講義・演習

第12回目：指導方法と指導原理（2）：講義・演習

第13回目：指導方法と指導原理（3）：講義・演習

第14回目：指導方法と指導原理（4）：講義・演習

第15回目：指導方法と指導原理（5）：講義・演習

第16回目：指導内容と教材配列（教科書分析）（1）：講義・演習

第17回目：指導内容と教材配列（教科書分析）（2）：講義・演習

第18回目：指導内容と教材配列（教科書分析）（3）：講義・演習

第19回目：指導内容と教材配列（教科書分析）（4）：講義・演習

第20回目：指導内容と教材配列（教科書分析）（5）：講義・演習

第21回目：モニタリングと評価（1）：講義・演習

第22回目：モニタリングと評価（2）：講義・演習

第23回目：モニタリングと評価（3）：講義・演習

第24回目：モニタリングと評価（4）：講義・演習

第25回目：モニタリングと評価（5）：講義・演習

第26回目：授業研究（中学校）（1）：講義・演習

第27回目：授業研究（中学校）（2）：講義・演習

第28回目：授業研究（高等学校）（3）：講義・演習

第29回目：授業研究（高等学校）（4）：講義・演習

第30回目：授業研究（高等学校）、まとめ（5）：講義・演習

5. 成績評価方法：指導案（30%）、授業研究（30%）、テスト/レポート（30%）、授業に対する貢献（10%）

6. 教科書および参考書：・鈴木渉（2017）『実践例に学ぶ第二言語習得研究に基づく英語指導』大修館書店

・文部科学省（2018）『中学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 外国語編』開隆堂出版

・文部科学省（2019）『高等学校学習指導要領（平成30年度告示）解説 外国語編・英語編』開隆堂出版

・文部科学省（2020）『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校外国語』

・文部科学省（2021）『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校外国語』

テキストについては、第1回目、4月

7. 授業時間外学習：教科書の予習・復習各1時間、レポート・プレゼンテーション作成2時間、計4時間の授業外学習が必要である。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

○

9. その他：

科目名：フランス語科教育法 I

曜日・講時：火曜 1 限

semester：5 単位数：2

担当教員：黒岩 卓

コード：LB92101, 科目ナンバリング：LHM-EDU909J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：フランス語教育法入門（1）

2. 授業の目的と概要：フランス語力を高めつつ、フランス語教育学についての基礎的な知識を得る。

3. 学習の到達目標：フランス語を教える上での実践的なイメージが得られるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 オリエンテーション

第2回 目的（1）

第3回 目的（2）

第4回 教え方（1）

第5回 教え方（2）

第6回 教室運営（1）

第7回 教室運営（2）

第8回 目標の設定（1）

第9回 目標の設定（2）

第10回 教育プログラム（1）

第11回 教育プログラム（2）

第12回 授業運営（1）

第13回 授業運営（2）

第14回 まとめ（1）

第15回 まとめ（2）

（内容は予定であり、変更があり得ます）

5. 成績評価方法：出席点（100%）

6. 教科書および参考書：Le FLE en questions: Enseigner le français langue étrangère et seconde, sous la direction de Jean-Marc Defays, Mardaga, 2020.（教科書の入手方法などについては最初の授業で解説します）

7. 授業時間外学習：毎回まとまった量のフランス語のテキストを講読しますので、その予習が必要になります。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

フランス語の基礎的な読解力が必要になります。

科目名：フランス語科教育法Ⅱ

曜日・講時：火曜 1 限

semester：6 単位数：2

担当教員：黒岩 卓

コード：LB92102, 科目ナンバリング：LHM-EDU910J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：フランス語教育法入門（2）

2. 授業の目的と概要：フランス語力を高めつつ、フランス語教育学についての基礎的な知識を得る。

3. 学習の到達目標：フランス語を教える上での実践的なイメージが得られるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

Session 1: オリエンテーション

Session 2: 学生の既習知識 (1)

Session 3: 学生の既習知識 (2)

Session 4: コミュニケーション (1)

Session 5: コミュニケーション (2)

Session 6: 文法 (1)

Session 7: 文法 (2)

Session 8: 評価 (1)

Session 9: 評価 (2)

Session 10: 移民学習者 (1)

Session 11: 移民学習者 (2)

Session 12: 文化 (1)

Session 13: 文化 (2)

Session 14: まとめ (1)

Session 15: まとめ (2)

(以上は予定であり、実際には変更があり得ます)

5. 成績評価方法：出席点 (100%)

6. 教科書および参考書：Le FLE en questions: Enseigner le français langue étrangère et seconde, sous la direction de Jean-Marc Defays, Mardaga, 2020. (教科書の入手方法などについては最初の授業で解説します)

7. 授業時間外学習：毎回まとまった量のフランス語のテキストを講読しますので、その予習が必要になります。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

フランス語の基礎的な読解力が必要になります。

科目名：地理歴史科教育法 I

曜日・講時：水曜 2 限

Semester：5 単位数：2

担当教員：講師（非）

コード：LB93202, 科目ナンバリング：LHM-EDU913J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：学習指導要領解説と授業案の作成

2・授業の目的と概要：本授業の目的は2つある。その一つは学習指導要領を適切に理解し、高校地理的分野の構造と目的を把握することである。もう一つは、その理解の上に具体的には授業を構想、教材研究を行った上で授業案を作成することである。

3. 学習の到達目標：①学習指導要領を適切に理解できる。
②授業を構想し、授業案を作成できる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. インTRODクシヨン 授業づくりの基本
2. 授業案の構造と書き方
3. 社会科の歴史と現行学習指導要領の特徴
4. 授業づくりの解説 地理総合(1) 地図とGIS
5. 授業づくりの解説 地理総合(2) 異文化理解
6. 授業づくりの解説 地理総合(3) 地球的課題
7. 授業づくりの解説 地理総合(4) 防災教育
8. 授業づくりの解説 地理探究(1) 自然環境
9. 授業づくりの解説 地理探究(2) 資源と産業
10. 授業案の講評と解説 地理総合
11. 授業づくりの解説 地理探究(3) 人口と都市
12. 授業づくりの解説 地理探究(4) アジア
13. 授業づくりの解説 地理探究(5) ヨーロッパ
14. 授業づくりの解説 地理探究(6) アメリカ
15. 授業案の講評と解説 地理探究

5. 成績評価方法：地理総合と地理探究の授業案の作成を課し、その評価による。
その他、授業中のミニレポートを勘案する。

6. 教科書および参考書：文部科学省『学習指導要領解説 地理歴史編』
『学習指導要領と授業づくり』左右社

7. 授業時間外学習：2回の授業案作成は授業時間外学習として行う。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：地理歴史科教育法Ⅱ

曜日・講時：水曜 2 限

semester：6 単位数：2

担当教員：未定

コード：LB93203, **科目ナンバリング：**LHM-EDU914J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：高等学校歴史授業の設計と実践

2・授業の目的と概要：高等学校学習指導要領における歴史科目の指導内容のポイントとその具体的展開や教材の取扱いを学び、学習指導案を作成して模擬授業を行える実践的な指導力を育成する。

3. 学習の到達目標：①新教育課程における歴史科目について、目標と指導内容、指導の具体的展開、教材の取扱いのポイントを理解し、歴史科目の学習指導案を作成することができる。

②作成した学習指導案に基づいて授業実践を行い、授業実践の評価を基に、授業改善について考えることができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション、学習指導要領と学習指導案のポイント
2. 学習指導案と授業実践の事例研究
3. 「日本史探究」の授業準備①
4. 「日本史探究」の授業準備②
5. 「日本史探究」の授業実践
6. 「世界史探究」の授業準備①
7. 「世界史探究」の授業準備②
8. 「世界史探究」の授業実践
9. 「歴史総合」の授業準備①
10. 「歴史総合」の授業準備②
11. 「歴史総合」の授業実践
12. 模擬授業に向けた準備①
13. 模擬授業に向けた準備②
14. 模擬授業の実践と相互評価
15. 模擬授業の振り返りと相互評価を基にした授業改善レポートの作成

5. 成績評価方法：①各科目の授業準備 (40%)

②各科目の授業実践と授業改善 (30%)

③授業への参加態度等 (30%)

6. 教科書および参考書：①文部科学省『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 地理歴史編（令和 3 年 8 月一部改訂）』（東洋館出版社）

②『詳説日本史』（山川出版社、81 山川日探 705）

③『世界史探究』（実教出版、7 実教世探 702）

④『詳述歴史総合新訂版』（実教出版、7 実教歴総 007-901）

7. 授業時間外学習：授業時間外に学習指導案の作成、教材・教具の作成、模擬授業に向けた準備等を行う。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：宗教科教育法 I

曜日・講時：金曜 1 限

semester：5 単位数：2

担当教員：高橋 原

コード：LB95101, 科目ナンバリング：LHM-EDU915J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：ポスト多文化主義教育が描く宗教

2・授業の目的と概要：指定テキストに沿って、海外の事例を参考に、多文化が共存する社会において学校教育において宗教を教えることが持つ意味を学ぶ。

3. 学習の到達目標：海外の事例を参考に、日本における宗教教育の課題を理解する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

藤原聖子『ポスト多文化主義教育が描く宗教』（岩波書店、2017）を講読の形で読み進める。

- (1) イントロダクション
- (2) 宗教と教育におけるコミュニタリアンの転回(1)
- (3) 宗教と教育におけるコミュニタリアンの転回(2)
- (4) ディスカッション
- (5) 「宗教と暴力」の学習方法——日英教科書比較(1)
- (6) 「宗教と暴力」の学習方法——日英教科書比較(2)
- (7) ディスカッション
- (8) イギリスの宗教教育史——コミュニタリアンの転回以前(1)
- (9) イギリスの宗教教育史——コミュニタリアンの転回以前(2)
- (10) ディスカッション
- (11) 共同体の結束へ——二〇〇〇年代以降の宗教教育
- (12) 異文化理解型からどう変化したか——二〇一〇年代の教科書の分析 1
- (13) 公共的宗教の諸相——二〇一〇年代の教科書の分析 2
- (14) コミュニタリアンの転回の功罪
- (15) まとめ

5. 成績評価方法：出席状況と毎回の発表による。

6. 教科書および参考書：藤原聖子『ポスト多文化主義教育が描く宗教』（岩波書店、2017）

7. 授業時間外学習：授業内で指示する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

原則として、受講者は教員採用試験受験を予定しており、宗教科の教員免許を取得しようとしているものに限る。
教科書購入必須。

科目名：宗教科教育法Ⅱ

曜日・講時：金曜 1 限

semester：6 単位数：2

担当教員：高橋 原

コード：LB95102, 科目ナンバリング：LHM-EDU916J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：宗教文化教育

2. 授業の目的と概要：中学生高校生に宗教文化を教えられるように基礎知識を学ぶ。

3. 学習の到達目標：世界の諸宗教について教える際の問題点を分かりやすく説明できるようにする。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

(1)イントロダクション (2)日本の宗教1 (3)日本の宗教2 (4)日本の宗教3 (5)日本の宗教4 (6)日本の宗教5 (7)世界の宗教1 (8)世界の宗教2 (9)世界の宗教3 (10)世界の宗教4 (11)世界の宗教5 (12)世界の宗教6 (13)現代の宗教1 (14)現代の宗教2 (15)まとめ

5. 成績評価方法：出席状況と毎回の発表による。

6. 教科書および参考書：『解きながら学ぶ日本と世界の宗教文化』宗教文化教育推進センター（編集），井上順孝：編集委員長（編集）、集広舎、2019

7. 授業時間外学習：授業内で指示する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：